

物価上昇 3カ月連続 2%超

6月2.2% 必需品の値上がり鮮明

6月の消費者物価指数(2020年=100)は、値動きの大きい生鮮食品をのぞいた総合指数が101.7で、前年同月より2.2%上がった。上昇は10カ月連続、上昇幅が2%を超えるのは3カ月連続となった。▼経済面―スクリーニング―深刻化

総務省が22日、発表した。生鮮食品をのぞく522品目のうち7割が値上がりした。主な食料や電気代、医薬品など生活に欠かせない「基礎的支出項目」が4.4%上がった一方、外食や旅行といった「選択的支出項目」は0.2%の上昇にとどまる。家計に占

める生活必需品の支出が大きい中低所得層ほど負担が大きい構図が浮かぶ。6月の物価の動きの特徴は、生鮮食品をのぞく食料の値上がりが目立ってきたこと。小麦など穀物価格の高騰に加え、物流費や包装

値上がりの大きな主な商品(前年同月比、%)

| | |
|---|--------------------------------|
|  | 生鮮食品 全体 6.5 |
| | タマネギ 95.8 |
| | マグロ 17.8 |
|  | 生鮮食品のぞく食料 全体 3.2 |
| | 食用油 36.0 |
| | 牛肉(輸入品) 13.5 |
| | カップ麺 11.1 |
|  | エネルギー関連 全体 16.5 |
| | 電気代 18.0 |
| | ガス代 17.1 |
| | ガソリン 12.2 |
|  | 家庭用耐久財 全体 7.5 |
| | 冷蔵庫 14.9 |
| | エアコン 11.3 |

一方、エネルギー関連の上昇率は16.5%で、第2

次石油危機の影響があった1981年以来約41年ぶりの上げ幅となった3月(20.8%)以降、伸びは鈍化している。項目別にみると、電気代が18.0%、ガス代が17.1%、ガソリン代が12.2%の上昇だった。政府によるガソリン代の高騰を抑える補助金が増え、品薄になっているエアコンも11.3%上昇した。ウクライナ侵攻の長期化もあり、国内の物価上昇率は当面2%超えが続くとの見方は多い。一方、米国の6月の消費者物価指数は9.1%上昇と約40年半ぶりの水準となるなど、世界では日本よりも物価上昇の勢いが激しい国が多い。

このほか、中国・上海の都市封鎖(ロックダウン)による部品不足などが響き、品薄になっているエアコンも11.3%上昇した。ウクライナ侵攻の長期化もあり、国内の物価上昇率は当面2%超えが続くとの見方は多い。一方、米国の6月の消費者物価指数は9.1%上昇と約40年半ぶりの水準となるなど、世界では日本よりも物価上昇の勢いが激しい国が多い。

(北川 薫)